

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371601234
法人名	医療法人 悠山会
事業所名	グループホーム ファミリア元八事
訪問調査日	平成20年10月16日
評価確定日	平成20年11月21日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2371601234
法人名	医療法人 悠山会
事業所名	グループホーム ファミリア元八事
所在地	名古屋市天白区八事三丁目292番地 (電話) 052-832-8017

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年10月16日	評価確定日	平成20年11月21日

【情報提供票より】(平成20年9月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年3月16日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤 8人, 非常勤 4人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(280,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	600 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成20年9月9日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	10名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84 歳	最低	77 歳	最高	94 歳
協力医療機関名	医療法人悠山会 山内外科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の一角にあり、外壁が落ち着いたベージュ色の2階建ての建物である。近くに公園、神社があり散歩コースになっている。車の通りも少なく、緑も多く残っていて落ち着いた生活できる場所となっている。共用部分、居室のスペースが広く、日当たりが良いリビングのソファでは、入居者同士がゆったりと話ができる場所となっている。中庭では野菜、果物などを育て収穫された物が食卓に出されることもある。近所とは散歩時に挨拶を交わしたり、また、近隣の方から花を頂くこともあるなど地域との交流が図られている。週1回協力医の往診があり、看護師は24時間対応となっており、家族の安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点については、管理者と職員との話し合いの場が持たれ、一部は見直しがされたが、全項目の改善には至らなかった。さらに改善に向けた取り組みに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の評価は初めてということもあり、難しく理解できなかった部分もあったが、今年は2年目であり問題点、疑問点が明確になり短所に気づくことができた。また、自分たちでは「できている」と思っていたことが実際にはできておらず改めて反省の機会が持てたなどの声が聞かれた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2カ月に1回開催されており、メンバーは協力医、家族、ホーム管理者となっている。会ではホームの行事や現状などを報告している。「会議」では堅苦しいイメージがあり、家族の参加が難しいことから、「茶話会」として気軽に参加してもらえるよう継続していきたいと考えている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族は訪問時、直接管理者や職員に話をすることが多い。必要に応じ家族との時間を設け、話し合う機会をつくっている。職員には朝の申し送りやミーティングで伝達される。今後、「茶話会」や「食事会」などの家族会を開催したいと考えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会しており、地域の清掃や夏祭りに参加した。散歩の時、近隣の方と挨拶したり「困ったことは無いですか」「できることは無いですか」などと声をかけている。近隣の方からお花を頂くこともあり、地域との交流は図られている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今までと変わらない安らかで心和む暮らし」を理念とし、過ごしやすい環境、状況に心がけている。入居者と職員が家族のように穏やかに暮らしていけたらと考えている。		入居者がその地域の中でその人らしく暮らせる地域密着型サービスとしての理念をつくりあげること期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示されている。家族には入居時に説明し理解を得ている。管理者、職員は日々理念に沿ったケアがされており、ミーティングで話し合い、実践に向けた取り組みがされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、地域の清掃や夏祭りに参加した。散歩の時、近隣の方と挨拶したり「困ったことは無いですか」「できることは無いですか」などと声をかけている。近隣の方からお花を頂くこともあり、地域との交流は図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価は初めてということもあり、難しく理解できなかった部分もあったが、今年は2年目であり問題点、疑問点が明確になり短所に気づくことができた。また、自分たちでは「できている」と思っていたことが実際にはできておらず改めて反省の機会が持てたなどの声が聞かれた。		改善点については、管理者と職員との話し合いの場が持たれた。以前は検食を兼ね職員一人が食事を一緒に摂っていたが、職員全員が入居者と食事を共にするようになった。今後も改善に向けた取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に1回開催されており、メンバーは協力医、家族、ホーム管理者となっている。会ではホームの行事や現状などを報告している。「会議」では堅苦しいイメージがあり、家族の参加が難しいことから、「茶話会」として気軽に参加してもらえよう継続していきたいと考えている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>書類上困ったことや疑問に思ったことは、区役所の介護保険担当者に相談にのってもらい、指導を受けている。また、ホームの行事には区役所にボランティアの派遣をお願いしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問は多く、訪問時に入居者の現状や様子について説明している。2カ月に1回ホーム便りを発行し、行事の写真も一緒に送付している。ホーム便りには、入居者の日常の様子や新入社員の紹介、コメントなどを載せている。訪問時以外にも電話連絡など行なっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族は訪問時、直接管理者や職員に話をすることが多い。必要に応じ家族との時間を設け、話し合う機会をつくっている。職員には朝の申し送りやミーティングで伝達される。今後、「茶話会」や「食事会」などの家族会を開催したいと考えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動はほとんど無く、入居者の担当職員は決められている。職員の採用時には、研修期間が2カ月間設けられている。職員は1、2階で固定されているが、合同でイベントを行なうので、担当者以外の職員とも馴染みの関係ができていく。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修は定期的に職員全員が受けられるよう2日間行なわれている。ホーム内でも研修が毎月1回行なわれている。外部研修については、資料の提供がされており希望者は参加できる体制となっている。また、介護福祉士など資格取得希望者には勤務ローテーションを調整するなど協力できるよう努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なごや南東部グループホーム交流会に加盟している。1~2カ月に1度、交流会が開催され、勉強会には職員が参加することもある。管理者は天白区福祉協議会の会議にも出席し、情報収集や交流に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には自宅を訪問し、本人や家族の思い、状況を確認している。見学はいつでも受け入れ可能である。昼間の体験入居を行っており、入居者と食事をしたりお茶をしたりと馴染みの関係を築いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者の関わり合いとしては、毎日の生活が笑顔で過ごせるようにコミュニケーションを多く取り、人生の先輩として教わる立場で声かけをし、できることは手伝ってもらい職員と一緒にこなしている。何事も強制はせず入居者のペースに合わせ職員は見守りを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の生活歴、言動、表情から入居者のしたいことを汲み取るようにしている。把握が困難な入居者については、家族に協力をお願いしている。「入居者本位」の生活を大切にし、日々の生活が充実したものとなるよう支援されている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者は一週間前にアセスメント表を掲示し、他の職員の意見や情報、日々の気づきなどを記入している。記入されたアセスメント表をもとに、管理者や計画作成担当者、担当職員で仮の介護計画を立てている。再度、職員も参加し計画の確認をしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回のカンファレンスを行っており入居者の状態、状況を話し合い、情報の共有を図っている。定期的な見直しは短期目標3カ月、長期目標6カ月で行っている。入居者に変化が見られた場合は、随時介護計画を見直している。家族にはホームに来てもらい確認をお願いしている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を活かし終末期における医療と介護の連携を強化している。今までに看取った経験があり、医師と看護師の情報提供により、職員一人ひとりではなく、チームケアにて状況報告を密に行い、対応できるよう努めていきたいと考えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医に主治医を変更するにあたり、入居時に家族に同意書をお願いしている。入居前のかかりつけ医への受診は基本的に家族をお願いしている。週1回協力医による往診がある。血液検査が2カ月に1度行なわれている。看護師が常勤しており健康管理がされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応指針があり、入居者や家族に説明し同意書を得ている。入居者、家族が希望されれば、ホームで最期をむかえてもらえるよう、医師や看護師の指導のもと日ごろから情報交換、連携に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送りの際は、部屋番号やイニシャルで話し、記録している。ミーティングで個人情報の日常的な決まりごとについて、職員が意見を出し合い検討している。入居者の不安や悩みごとは居室で対応している。入居者が失禁された場合には、さりげなく声をかけ誘導して他の人に気づかれないよう配慮している。一人ひとりの自尊心を尊重し、敬意を持った支援に心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活歴を活かし、ピアノの演奏、園芸、食事の準備、片付け、洗濯物たたみなど支援している。身体機能の維持向上のため、午前と午後の2回、毎日本体操が行われている。美容院への外出、食材の買い物など職員と一緒に出かけている。帰宅願望の強い方もあり、本人の思いを汲み取り外出に誘うなど、寄り添ったケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立表にもとづき調理されており、月2回特別食の日には入居者の希望を聞き好きな物、食べたい物を提供している。入居者に調理を手伝ってもらったり、味を見てもらうなど職員と一緒にいる。食事中はテレビは消して、話をしながら楽しく食事を入居者と職員がされている姿が見られた。毎日の食事を美味しくいただくため、食後の口腔ケアの支援をしている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は毎日可能であり、朝10時より夜20時の間で希望の時間に入浴してもらっている。入浴を拒否される入居者には、シャワー浴、清拭に変更したり、タイミングを見て入ってもらっている。また、気分転換のため入浴剤を使用しており、保湿や保温にも心がけている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>レクリエーションのほかに週1回クラブ活動の日を設け、書道やぬり絵、調理、裁縫などがあり、入居者は好きな日に参加している。裁縫が得意な方はパッチワークに取り組み、作品は居室に飾られている。畑仕事をする方もおり、水やりや草むしりをし、入居者、職員共に収穫を楽しみにしている。また、入居者と職員がソファに座り話をしたり、テレビを見たり、一人ひとりの見守り支援も行っている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>年間行事があり、2~3カ月に1回の外出にはほぼ全員が参加している。散歩の途中に喫茶店やファーストフードへ立ち寄ることもある。散歩は毎日行い天気の良い日は、公園や神社まで行くこともある。特別食の日には、入居者と職員と一緒に買い物に出かけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>以前、施錠はしていなかったが、不審者の侵入があり、防犯、安全のため施錠している。リビングからは、ベランダや庭に自由に出入りすることができるようになっている。今後、開錠することを職員全員で検討している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	開所当時は、避難訓練を実施していたが現在は実施には至っていない。消火器は何箇所か設置されている。		今後、地域住民や消防団の協力を得ながら避難訓練を実施されることに期待したい。また、災害時における非常用食料、飲料、備品などの準備についても検討されることに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	献立は配食業者が立てており、1日の栄養摂取量は計算され1日1,300～1,500kcalに設定されている。水分は1,000ccを目安に摂取している。また、食事に制限のある入居者もいることから塩分に気をつけた味付けになっている。おやつは制限せず、美味しく楽しく食べてもらえるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	玄関は広くソファが配置され、散歩から帰ると一休みする入居者もいる。リビングには、入居者と職員が一緒に作った作品が飾られ、季節感が感じられるような飾り付けがされていた。浴室、トイレなども広く入居者が使用した後は、職員がさりげなく確認し、いつでも入居者が気持ちよく利用できるよう清潔保持に努めている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	基本的には今まで使用していた物を持ってきていただくようお願いしている。危険物は持ち込み禁止となっている。居室には好きな物や馴染みのタンスが持ち込まれている。仏壇を持ってきている入居者もいる。自分で作った作品を部屋に飾られている方もおり、本人が一番落ち着いた生活の場となるよう工夫されている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。